

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あります。本年の累積報告数は92例で、この時期までの累積報告数としては、感染症法に基づく届出の対象となった平成11年以降では、平成15年に次いで多くなっています。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.51(185例)で、先週に引き続き増加しています。年齢階級別では、1歳(29例)が最も多く、0歳から6歳までで72.4%(134例)を占めています。
- RSウイルス感染症の報告が4例(1歳, 2歳, 3歳)あり、報告が5週連続しています。

## ◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は18.50(1258例)、全国では27.39で、本市では第47週以降、全国では第48週以降、減少してきていますが、共に流行発生警報の継続基準値(10.0)以上の高水準であるため、警報発令中です。

なお、12月19日に市内で4例目の死亡例(男, 82歳, 小脳梗塞・閉塞性動脈硬化等の基礎疾患有, 死因は肺炎)が報告されています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- 二類: 結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)  
【1月以降の累積報告数 372例(肺結核 241例, 肺外結核 87例, 無症状病原体保有者 44例), (喀痰塗抹陽性 116例)】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2) 1例【1月以降の累積報告数 92例】
- 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 14例】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	18.50	1258
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.51	185
	② 水痘	0.80	33
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.66	27
	④ 突発性発しん	0.37	15
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP, 糞便をFC, 髄液をSF, 尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
エコーウイルス3型(1)	かぜ症候群(第37週)	NP	アデノウイルス5型(1)	かぜ症候群(第42週)	NP
エコーウイルス6型(1)	無菌性髄膜炎(第41週)	SF	A群溶血性レンサ球菌(1)	かぜ症候群(第42週)	NP
ポリオウイルス1型(1)	感染性胃腸炎(第42週)	FC	肺炎球菌(5)	かぜ症候群(第40週, 第41週, 第44週), 川崎病(MCLS)(第40週), RSウイルス感染症(第42週)	NP×5
RSウイルス(1)	かぜ症候群(第41週)	NP	インフルエンザ菌b型以外(1)	かぜ症候群(第40週)	NP
黄色ブドウ球菌(4)	感染性胃腸炎(第45週), かぜ症候群(第43週), A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(第41週), 不明・記載なし(第43週)	NP×3, FC			

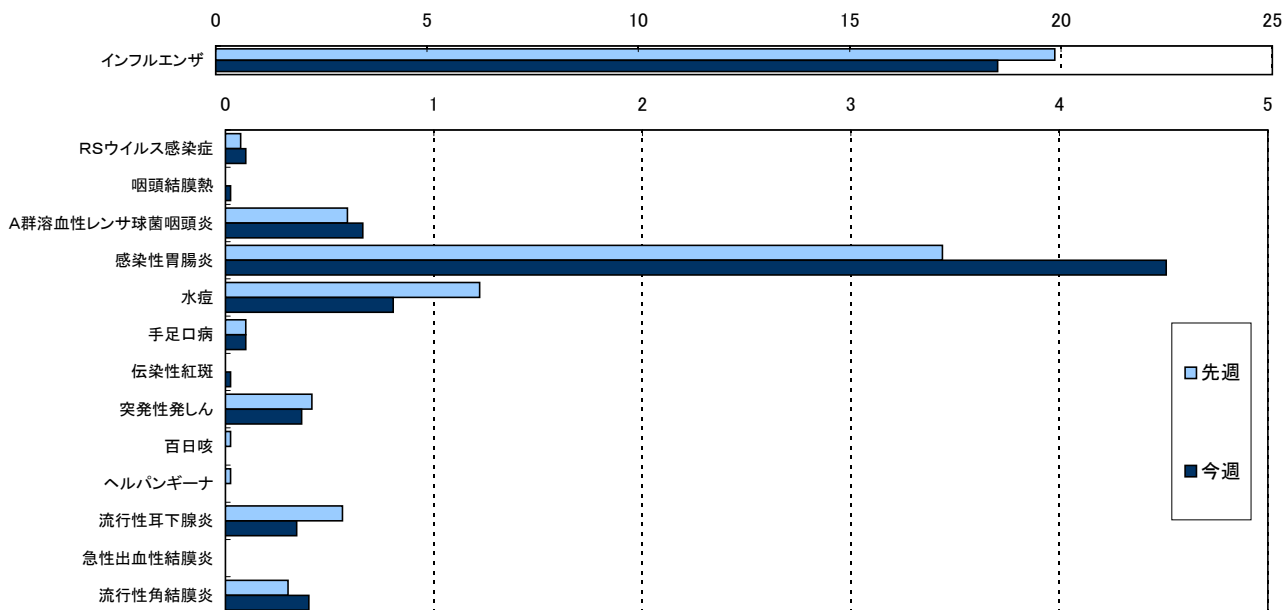
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

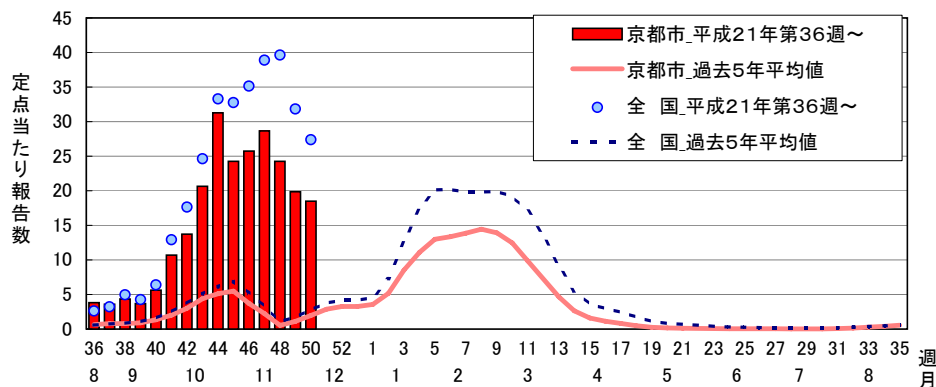
(注) 京都市のデータは、平成21年12月17日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第50週)と先週(第49週)の定点当たり報告数の比較



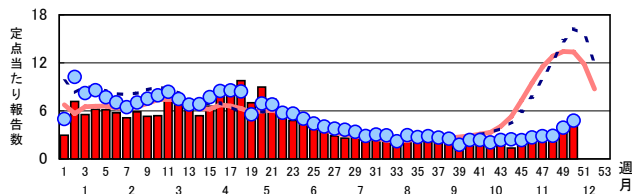
週	報告数(例)
第46週	1751
第47週	1948
第48週	1649
第49週	1350
第50週	1258
累積報告数 (第36週以降)	16231



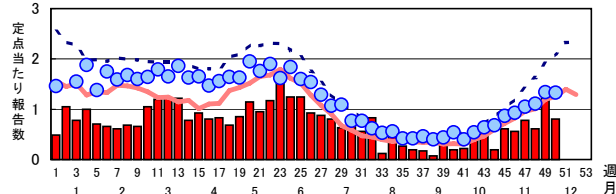
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

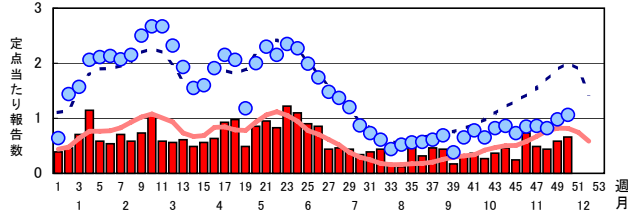
1 感染性胃腸炎



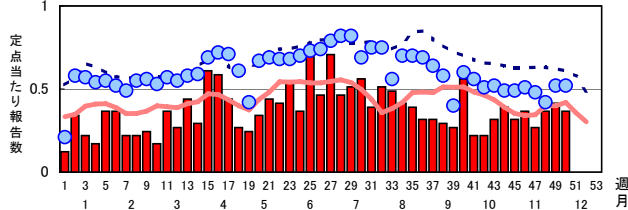
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

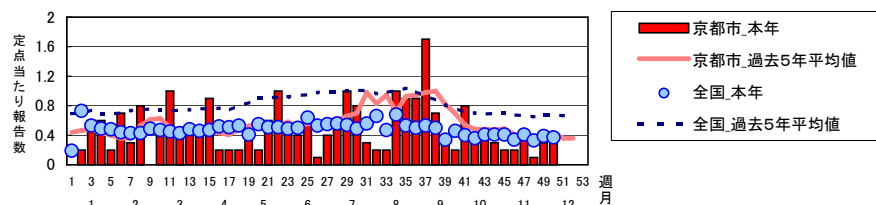


4 突発性発しん



<眼科定点>

流行性角結膜炎



# 第50週(12月7日～12月13日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は18.50(1258例)、全国では27.39で、本市では第47週以降、全国では第48週以降、減少してきていますが、共に流行発生警報の継続基準値(10.0)以上の高水準であるため、警報発令中です。

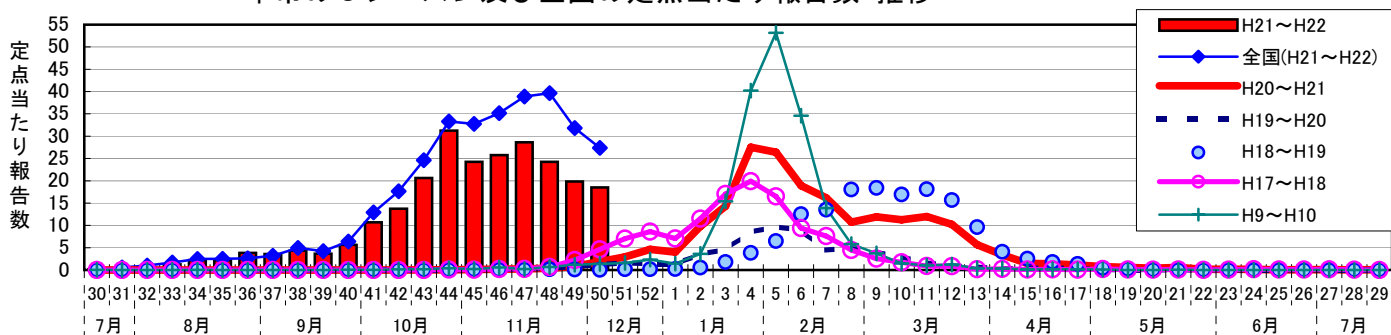
年齢群別では、「5～9歳」が最も多く、次いで「0～4歳」で、構成割合では、第41週以降、「0～4歳」の割合が増加しています。

一方、全国の10月～12月初旬までの死亡者率は、「0～4歳」、「5～9歳」の低年齢層のほか、「50～59歳」、「60歳以上」などの高年齢層で高くなっています。死亡者数の週別報告数は、死亡1例目(第33週)以降、第49週が、22例と最も多く、第50週は、10例となっています。

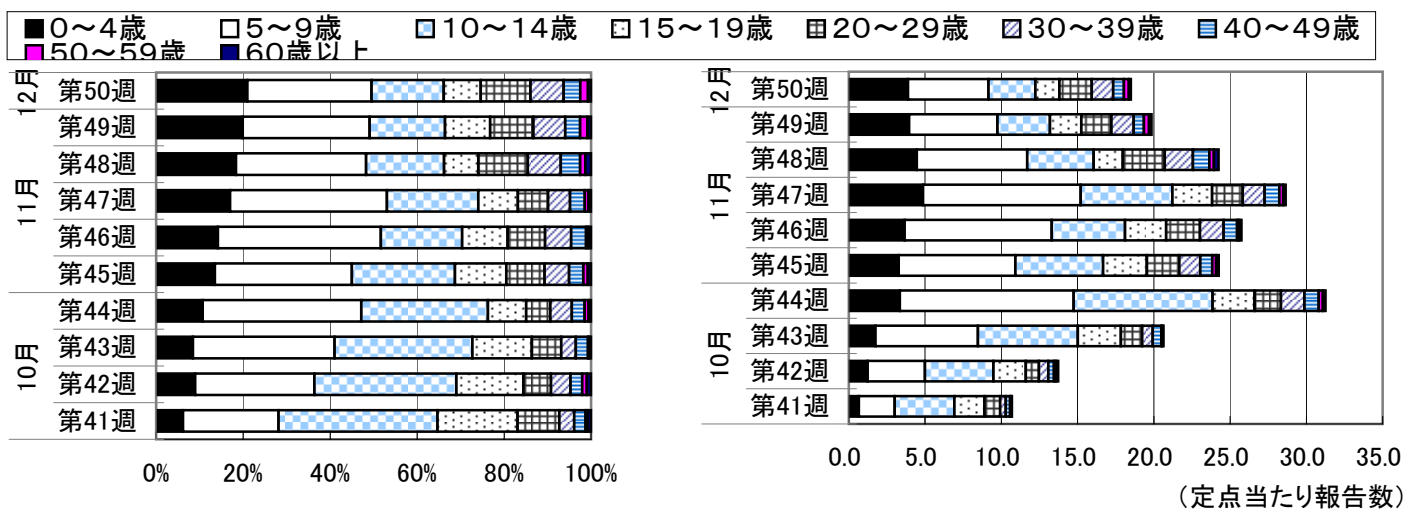
第50週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した45例のうち、37例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(8例は陰性)。

なお、12月19日に市内で4例目の死亡例(男、82歳、小脳梗塞・閉塞性動脈硬化・腎機能不良・膀胱がん術後、糖尿病疑の基礎疾患有、死因は肺炎)が報告されています。

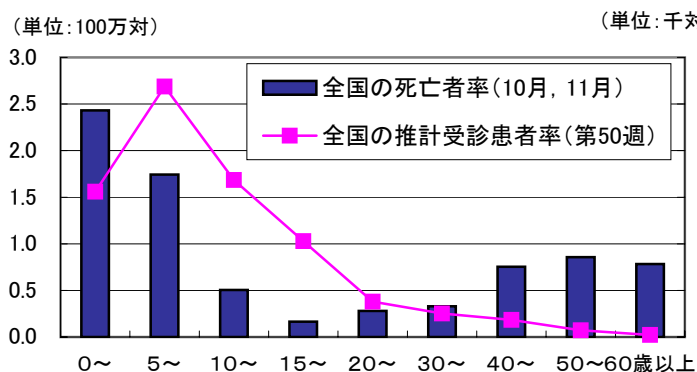
本市の6シーズン及び全国の定点当たり報告数 推移



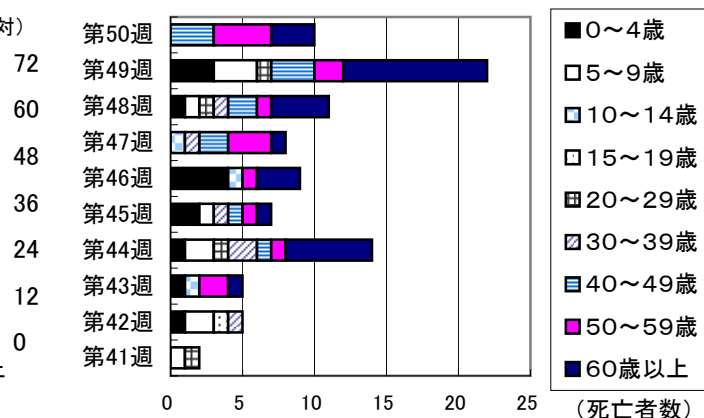
本市の年齢群別構成割合と定点当たり報告数の推移(10月～12月初旬)



全国の年齢群別死亡者率(10月～12月初旬)及び推定受診患者率(第50週)



全国の年齢群別死亡者数の推移



死亡者率…死亡日が第41週から第50週(10月～12月初旬)までの累積報告数(n=93)を平成20年人口動態調査のデータで割った。  
推計受診患者率…第50週の定点当たり報告数から算出された推計値を平成20年人口動態調査のデータで割った。